

都市再生整備計画 事後評価シート

河口湖北岸地区(第2期)

平成30年3月

山梨県富士河口湖町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山梨県		市町村名	富士河口湖町		地区名	河口湖北岸地区(第2期)			面積	795ha		
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	295百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 道路(町道7050号線)、地域生活基盤施設(広場[河口ポケットパーク、長浜親水広場・遊歩道、河口浅間通り辻広場]、駐車場[河口多目的駐車場]、情報版[河口湖北岸地区サイン]、地域防災施設[河口ポケットパーク防災施設、河口浅間通り辻広場防災施設]、高質空間形成施設(緑化施設等[湖畔街路灯])										
		提案事業	事業活用調査(都市再生整備計画事後評価)										
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	—			—			—				
	新たに追加した 事業	基幹事業	—			—			—				
		提案事業	—			—			—				
	交付期間 の変更	当 初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		—						
		変 更	変更なし										
	2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)
			基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
指標1		地区内防災訓練参加者数	人／年	530	H24	583	H29		610	○	あり なし	避難場所の整備等により、地区の防災機能が向上し、それに伴い、住民の防災まちづくりへの参加意向が高まっている。	H30.4
指標2		地区内宿泊者数	人／年	73,342	H24	77,009	H29		73,527	△	あり なし	従前値を計測した2施設の宿泊者数は横ばいで目標を達成していないが、近年新たな宿泊施設が建設されており、来年度データが揃った時点で新たな宿泊施設の宿泊者数を合算すれば、目標を達成できる見込みである。	H30.4
指標3										あり なし			
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み		
	その他の数値指標1	地区内観光施設の利用者数	人／年	463,913	H25				631,709			地区内の観光資源の整備により、地域の魅力が大きく向上し、利用者が大幅に増加した。	H30.4
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果 発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた						
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加 プロセス		・建設検討委員会の開催(河口ポケットパーク、河口多目的駐車場、河口浅間通り辻広場、長浜親水広場、町道7050号線) ・地元住民組織(河口浅間まちづくりの会)への意見聴取(河口ポケットパーク、河口多目的駐車場、河口浅間通り辻広場)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				○	・事業の実施にあたっては、住民合意形成を十分に行い、整備後の積極的な活用や協働による維持管理につなげていく。 ・計画段階から住民組織との連携を図り、整備した施設が有効に活用され、地域活性化につながるようにする。	
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
持続的なまちづくり 体制の構築		・住民主体のまちづくり活動(河口浅間まちづくりの会)によるイベント開催、町への提言)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				○	・他地区への住民活動の広がりを目指し、活動の芽を育て、支援に取り組んでいく。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

河川湖北岸地区(第2期)(山梨県富士河口湖町) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 安心・安全で誰もが心豊かに住み続けられ、来訪者との交流が盛んな魅力的で活気ある地域づくり		地区内防災訓練参加者数	単位: 人/年	530	H24	583	H29	610	H28
目標1: 地域の自然や歴史文化を活かし、魅力的で活気にあふれるまちづくりを推進するー「魅力的で活気にあふれるまちづくり」		地区内宿泊者数	単位: 人/年	73,342	H24	77,009	H29	73,527	H28
目標2: 防災機能の強化により、快適で安全・安心な暮らしの創造を図るー「安全・安心なまちづくり」									
目標3: 地域住民にとっても来訪者にとっても、利便性が高くわかりやすいまちづくりを推進するー「利便性が高くわかりやすいまちづくり」									

河口多目的駐車場

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口多目的駐車場

河口ポケットパーク

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口ポケットパーク

湖畔街路灯

■基幹事業
高質空間形成施設
湖畔街路灯

町道7050号線

■基幹事業
地域生活基盤施設
長浜親水公園広場・遊歩道

■基幹事業
道路
町道7050号線

地図: 河口湖北岸地区の概要図。主要な道路（国道357号、町道7050号線）と施設（河口多目的駐車場、河口ポケットパーク、湖畔街路灯、長浜親水公園広場・遊歩道）の位置を示す。スケールは0〜2,000m。

□提案事業
都市再生整備計画事後評価

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口ポケットパーク防災施設

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口浅間通り辻広場

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口浅間通り辻広場防災施設

■基幹事業
地域生活基盤施設
河口湖北岸地区サイン

河口ポケットパーク
防災施設

河口浅間通り辻広場

河口浅間通り辻広場
防災施設

河口湖北岸地区
サイン

まちの課題の変化

- ・地域にはまだ潜在化している歴史文化資源や自然資源が多く残っており、資源の掘り起こしや周辺整備により活用を図っていく必要がある。
- ・土砂災害等の防止に向けて、河川等の基盤整備に取り組む必要がある。
- ・地区内には狭隘な道路が残っているため、引き続き整備に取り組む、地区全体の避難路の確保を行う必要がある。
- ・地区内の公共交通は十分とは言えないため、来訪者の利便性向上のため公共交通による地区へのアクセス強化が必要である。
- ・地域資源や回遊ルートを活用し、地域活性化につなげていくために、ソフト面での取り組みを強化する必要がある。

今後のまちづくりの方策
(改善策を含む)

- ・地域の自然環境を保全するとともに、歴史文化資源に調和したまちなみを形成する。
- ・避難場所や避難路を住民に周知するとともに、災害時に有効に活用できるように防災訓練を行う。
- ・回遊する来訪者が休憩できるスポットをネットワーク上に点在させ、地区の魅力の向上を図る。
- ・歩道整備や街路灯の整備を推進し、地区全体の安全性の向上を図る。
- ・地域住民との協働により地域資源を掘り起こしまちづくりへの活用を図る。
- ・潜在化している資源周辺の整備、サイン整備、周遊ルートの整備、PRなどにより、地域資源のまちづくりへの活用を図る。
- ・防災上問題のある西川等の河川や斜面の整備を進め地区の安全性を確保するとともに、狭隘道路の解消により地区全体の防災機能の向上を図る。
- ・河口湖駅や町内の他地域、また地区内を回遊するための公共交通のシステムを検討し、資源を結ぶネットワークの強化を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	町道7050号線	10	W=4m L=85m	10	W=4m L=85m	なし		○	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場: 河口ポケットパーク	85	A=650㎡	103	A=650㎡	用地補償費の増加に伴う事業費の変更	影響なし	○	
地域生活基盤施設	広場: 長浜親水公園・遊歩道	45	A=4,000㎡	45	A=4,000㎡	なし			○
地域生活基盤施設	広場: 河口浅間通り辻広場	36	A=530㎡	36	A=530㎡	なし		○	
地域生活基盤施設	駐車場: 河口多目的駐車場	68	A=1,280㎡	120	A=1,280㎡	用地補償費の増加に伴う事業費の変更	影響なし	○	
地域生活基盤施設	情報板: 河口湖北岸地区サイン	3	3箇所	3	3箇所	なし		○	
地域生活基盤施設	地域防災施設: 河口ポケットパーク 防災施設	20	耐震性貯水槽等	20	耐震性貯水槽等	なし		○	
地域生活基盤施設	地域防災施設: 河口浅間通り辻広場 防災施設	14	耐震性貯水槽	14	耐震性貯水槽	なし		○	
高質空間形成施設	緑化施設等: 湖畔街路灯	32	親機9基、子機18基	32	親機5基、子機39基	実施設計の確定に伴う基数の変更	影響なし	○	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	都市再生整備計画事後評価	2,795ha		2,795ha		なし			○
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
山梨県景観形成モデル事業		河口浅間神社参道周辺			H24～H26	H24～H26	予定通り完了し、地区の街並み景観が向上し、魅力がアップしている	
社会資本整備総合交付金事業		主要地方道河口湖精進線	9,200	9,200	H17～H26	H17～H26	予定通り完了し、地域住民や来訪者の交通利便性が向上している	

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	地区内防災訓練参加者数	人／年	平成29年11月に、町地域防災課資料より、平成28年度1年間の防災訓練参加者数を計測し、評価値とする。			530	H24	583	H29	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	○	610	事後評価	○	
指標2	地区内宿泊者数	人／年	平成29年11月に、町税務課の入湯税資料より、平成28年度1年間の地区内宿泊者数を計測し、評価値とする。			73,342	H24	77,009	H29	モニタリング			モニタリング		○	
										事後評価	確定見込み	○	73,527	事後評価	△	
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	従前値に比べ、防災訓練参加者数が約15%増加し、目標値を上回っており、目標を達成している。	
指標2	現時点では、計測した宿泊施設の宿泊者数は横ばいで、目標を達成していない。	従前値で計測している2つの宿泊施設の数値としているが、新たな宿泊施設が2か所建設されている。新たな施設の宿泊者数が確定した段階で、フォローアップを行えば、目標を達成できる見込みである。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の 数値指標1	地区内観光施設の利用 者数	人／年	平成29年11月に、過去5年間程 度の利用者数のデータがある 地区内観光施設について、1年 間の利用者数を計測し、評価値 とする。			463,913	H25	モニタリング			交流人口の増加による地域の 活性化向上を評価する指標と して本指標を取り上げる。	
								事後評価	確定 見込み	○ 631,709		
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

本事業による整備により、地域住民のまちづくりに対する意識が高まり、河口地区では景観形成モデル事業を活用した住宅や店舗の景観整備が行われ、地域の魅力の向上につながっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
建設検討委員会の開催(河口ポケットパーク、河口多目的駐車場、河口浅間通り辻広場、長浜親水広場、町道7050号線)	予定どおり実施した	・実施時期: 基本設計時、実施設計時、着工前 ・実施結果: 整備内容について地域住民が主体となって検討をしてもらい、住民が愛着を持ち利用しやすい施設とすることができた。	事業の実施にあたっては、住民合意形成を十分に行い、整備後の積極的な活用や協働による維持管理につなげていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
地元住民組織(河口浅間まちづくりの会)への意見聴取(河口ポケットパーク、河口多目的駐車場、河口浅間通り辻広場)	予定どおり実施した	・実施時期: 基本設計時、実施設計時、着工前 ・実施結果: 整備内容の説明を行い、地域の意向を反映させた。	計画段階から住民組織との連携を図り、整備した施設が有効に活用され、地域活性化につながるようにする。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
住民主体のまちづくり活動(イベント開催、町への提言)	予定どおり実施した		河口地区の住民のまちづくり組織である「河口浅間まちづくりの会」において、地域活性化につながる取り組みを検討し、実施している。また、今後のまちづくりについて、河川整備等の検討が行われ、提言が行われている。	河口浅間まちづくりの会	他地区への住民活動の広がりを目指し、活動の芽を育て、支援に取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した	○			
	予定したが実施できなかった(理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった(理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
河口湖北岸地区(第2期)都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	政策企画課企業誘致・まちづくり推進担当、都市整備課公園管理担当、都市整備課建設担当、地域防災課防災担当、観光課観光振興担当	平成29年12月1日	政策企画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	その他の数値指標1			
指 標 名		地区内防災訓練参加者数	地区内観光施設の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度
基幹事業	(道路)町道7050号線	◎	地区内に防災施設を有する避難場所が整備されたことにより、都市防災機能が大きく向上した。ソフト面でも避難自主運営に向けた取り組みも始まっており、防災意識が高まっている。このようにハード整備によりソフト対策も進んでおり、整備効果がより高まっている。	○	地区内の観光資源の整備により来訪者の利便性が高まり、また、整備に触発された民間施設の立地や景観整備などにより、地域の魅力が大きく向上している。魅力の向上が、地区への来訪者への増加につながり、地区内観光施設の利用者数が、大幅に増加している。	
	(地域生活基盤施設:広場)河口ポケットパーク	◎		◎		
	(地域生活基盤施設:広場)長浜親水広場・遊歩道	○		◎		
	(地域生活基盤施設:広場)河口浅間通り辻広場	◎		◎		
	(地域生活基盤施設:駐車場)河口多目的駐車場	◎		◎		
	(地域生活基盤施設:情報板)河口湖北岸地区サイン	-		◎		
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)河口ポケットパーク防災施設	◎		-		
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)河口浅間通り辻広場防災施設	◎		-		
	(高質空間形成施設:緑化施設等)湖畔街路灯	-		◎		
提案事業	(事業活用調査)都市再生整備計画事後評価	-		-		
関連事業	山梨県景観形成モデル事業(河口浅間神社参道周辺)	-		◎		
	社会資本整備総合交付金事業(主要地方道河口湖精進線)	○		◎		

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域の防災まちづくり活動を支援し、安全安心なまちづくりを推進する。	潜在化している地域資源の活用により、さらなる魅力の向上を図り、地域の活性化につなげていく。		
-------	-----------------------------------	---	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指 標 名		地区内宿泊者数											
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	(道路)町道7050号線	△	従前に計測している施設の宿泊者数の増加にまでは至らなかった。しかし、地区内には新たな宿泊施設が2か所建設されており、地区内の宿泊者数は増加している。新たな施設の宿泊者数のデータが揃った時点で目標を達成していることをフォローアップする。	Ⅲ									
	(地域生活基盤施設:広場)河口ポケットパーク	△											
	(地域生活基盤施設:広場)長浜親水広場・遊歩道	△											
	(地域生活基盤施設:広場)河口浅間通り辻広場	△											
	(地域生活基盤施設:駐車場)河口多目的駐車場	△											
	(地域生活基盤施設:情報板)河口湖北岸地区サイン	△											
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)河口ポケットパーク防災施設	－											
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)河口浅間通り辻広場防災施設	－											
	(高質空間形成施設:緑化施設等)湖畔街路灯	△											
提案事業	(事業活用調査)都市再生整備計画事後評価	－											
関連事業	山梨県景観形成モデル事業(河口浅間神社参道周辺)	△											
	社会資本整備総合交付金事業(主要地方道河口湖精進線)	△											

※目標未達成への影響度
××:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△:数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－:事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	観光客の長期滞在に向け、地域資源の一層の向上を図ると共に、周遊ルートの整備やPRに取り組んでいく。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
河口湖北岸地区(第2期)都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	政策企画課企業誘致・まちづくり推進担当、都市整備課公園管理担当、都市整備課建設担当、地域防災課防災担当、観光課観光振興担当	平成29年12月1日	政策企画課(都市再生整備計画主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
価値ある地域資源を活かすための基盤整備の推進	・町道7050号線の整備により、河口湖の湖畔へ容易にアクセスできるようになり、地区の魅力が高まった。 ・また、長浜親水広場・遊歩道が整備させることにより、河口湖の自然を活かした来訪者の増加が期待できる。 ・河口ポケットパーク及び河口多目的駐車場の整備により、歴史資源である河口浅間神社を核とした観光の魅力と利便性が向上した。	・地域にはまだ潜在化している歴史文化資源や自然資源が多く残っており、資源の掘り起こしや周辺整備により活用を図っていく必要がある。	・地域資源や回遊ルートを活用し、地域活性化につなげていくために、ソフト面での取り組みを強化する必要がある。
避難場所として活用できる公共空地の確保や避難路の整備	・河口多目的駐車場、河口ポケットパークの整備により避難地として活用できる公共空地が河口地区に確保された。 ・また、長浜親水広場が整備されると、長浜地区にも避難地として活用できる公共空地が確保される。 ・町道7050号線の整備により、避難場所への避難路が確保された。	・土砂災害等の防止に向けて、河川等の基盤整備に取り組む必要がある。 ・地区内には狭隘な道路が残っているため、引き続き整備に取り組み、地区全体の避難路の確保を行う必要がある。	
資源を結ぶネットワークの強化	・河口浅間通り辻広場の整備により、来訪者の回遊ルートに休憩できるスポットが整備され、来訪者の利便性が向上した。 ・サイン整備により資源のネットワークの強化が図られ、地域住民にとっても来訪者にとってもわかりやすいまちづくりが進んだ。 ・街路灯の整備により、夜間の安全性と利便性の向上が図られた。	・地区内の公共交通は十分とは言えないため、来訪者の利便性向上のため公共交通による地区へのアクセス強化が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	自然資源や歴史文化資源を活かした地域活性化	・地域の自然環境を保全するとともに、歴史文化資源に調和したまちなみを形成する。	・景観計画の推進 ・景観形成重点地区の指定検討 ・地区内の建築物や土木構造物の修景整備事業
	公共空地の確保や避難路の整備による地域防災機能の強化	・避難場所や避難路を住民に周知するとともに、災害時に有効に活用できるように防災訓練を行う。	・防災に関する広報やPR事業 ・防災訓練の充実
	来訪者の安全性と利便性の向上	・回遊する来訪者が休憩できるスポットをネットワーク上に点在させ、地区の魅力の向上を図る。 ・歩道整備や街路灯の整備を推進し、地区全体の安全性の向上を図る。	・まちかど休憩スポットの整備事業 ・歩道未設置区間の道路改良事業 ・街路灯の整備事業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	潜在化している地域資源のまちづくりへの活用	・地域住民との協働により地域資源を掘り起こしまちづくりへの活用を図る。 ・潜在化している資源周辺の整備、サイン整備、周遊ルートの整備、PRなどにより、地域資源のまちづくりへの活用を図る。	・住民活動への支援 ・地域資源の周辺整備事業 ・周遊ルートの検討とPR事業
	土砂災害の防止や狭隘道路の解消による防災機能の向上	・防災上問題のある西川等の河川や斜面の整備を進め地区の安全性を確保するとともに、狭隘道路の解消により地区全体の防災機能の向上を図る。	・河川改修事業(西川等) ・土砂災害防止対策事業 ・狭隘道路の解消事業
	地区へのアクセス性や回遊性を高める公共交通の改善	・河口湖駅や町内の他地域、また地区内を回遊するための公共交通のシステムを検討し、資源を結ぶネットワークの強化を図る。	・持続可能な公共交通の検討
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			単位	従前値		目標値		評 価 値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
				年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区内防災訓練参加者数	人／年	530	H24	583	H29	確定見込み	○	610	○	ありなし		H30.4	平成29年度の地区内防災訓練参加者数を実測し、状況を確認する。		
指標2	地区内宿泊者数	人／年	73,342	H24	77,009	H29	確定見込み	○	73,527	△	ありなし	○	H30.4	平成29年度の地区内宿泊者数を実測し、状況を確認する。	新に建設された施設の数値を合算する。	
指標3							確定見込み				ありなし					
指標4							確定見込み				ありなし					
指標5							確定見込み				ありなし					

その他の数値指標1	地区内観光施設の利用者数	人／年	463,913	H25		確定見込み	○	631,709				H30.4	平成29年度の地区内観光施設の利用者数を実測し、状況を確認する。	
その他の数値指標2						確定見込み						—		
その他の数値指標3						確定見込み						—		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		数値目標は、すぐに効果が現れなかったり、他施設の影響が大きい場合があるので、指標の設定には注意が必要である。
	うまくいかなかった点	「地区内宿泊者数」については、従前値の計測対象である施設の宿泊者数は横ばいで、事業効果が数値に現れなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	防災と来訪者数という2つの観点について数値目標を設定したことにより、都市再生整備計画事業の効果を幅広い視点から確認することができた。	数値目標の設定にあたっては、目標と数値目標の整合性を十分に検討し、事業全体の効果を評価できるものとする必要がある。
	うまくいかなかった点	当初の数値目標は、宿泊者に限った数値目標となっていたため、事業効果を十分に把握することができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	既存のまちづくり団体との協働により、整備内容の検討を進めることができ、整備した施設の積極的な活用につながっている。	住民のまちづくり組織の活動を支援し、協働のまちづくりを推進していく必要がある。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業を進める中で、学識経験者や住民の意見を取り入れながら、整備内容を適宜見直し、事業の実施効果を高めることができた。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・都市再生整備計画事業の活用予定
なし
- ・事後評価を予定している地区
なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町ホームページに事後評価原案を掲載	平成30年1月15日～ 平成30年1月26日	平成30年1月15日～ 平成30年1月26日	担当課への郵便、 ファックス、Eメール等	政策企画課(都市再生 整備計画主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	町ホームページおよび政策企画課窓口で原案を公表している旨を広報に掲載	平成30年1月1日発行 広報1月号	平成30年1月15日～ 平成30年1月26日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧	平成30年1月15日～ 平成30年1月26日	平成30年1月15日～ 平成30年1月26日		

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	坂本宏史(健康科学大学 教授)	平成30年3月22日	政策企画課(都市再生整備計画主管課)	富士河口湖町都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	中村太一(河口地区代表者 河口浅間まちづくりの会 会長) 宮下 昇(長浜地区代表者 奥河口湖観光協会 会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	・今後、指標の設定にあたっては、事業効果を適切に反映できる指標となり得るか、十分に検討する必要があるとの意見があった。
	実施過程の評価	・地区の住民組織が住民の意見の受け皿になることにより、地区の要望にあった効果的な整備につながるとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・宿泊者数に関しては、宿泊料金などの影響もあり富士五湖地域だけでなく広域的な分散があるとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は妥当と認められた。 ・意見募集にあたっては、地区の既往団体に意見を聞く機会を設けるなど、新しい手法も検討してはどうかという意見があった。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・安全・安心なまちづくりに向けて防犯カメラの設置も検討してはどうかとの意見があった。
	フォローアップ	・地区内宿泊者数については、新たに建設された施設だけでなく、その他の宿泊施設の状況も把握できるとよいとの意見があった。
	その他	・サクラと富士山というシチュエーションは、外国人観光客に対して非常に魅力が高いとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策については妥当と認められた。
その他		・特になし。